

2018年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

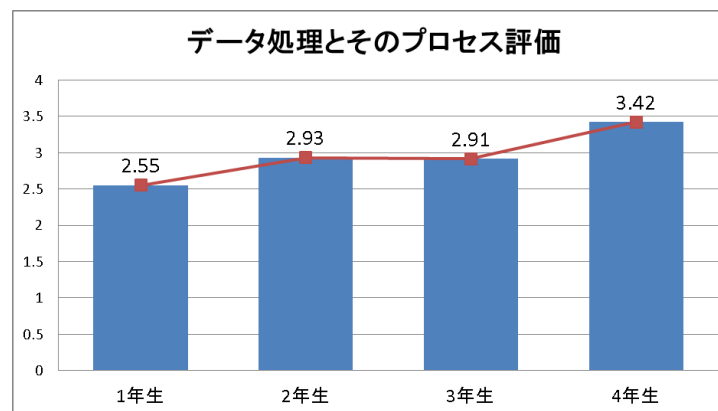
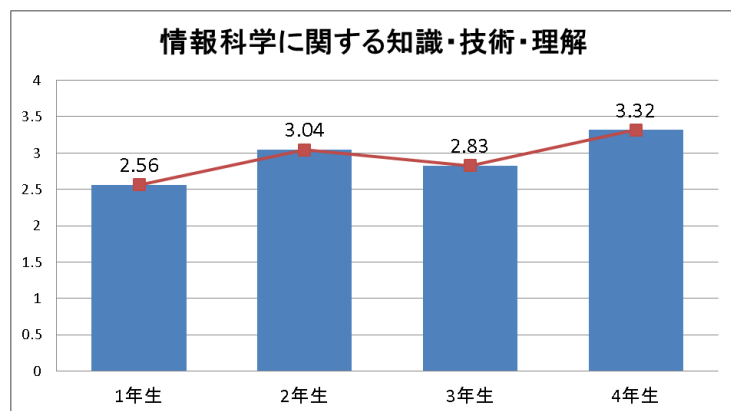
各学科・研究科専攻の学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）については、本学ホームページの「教育方針」（下記の URL）をご覧ください。

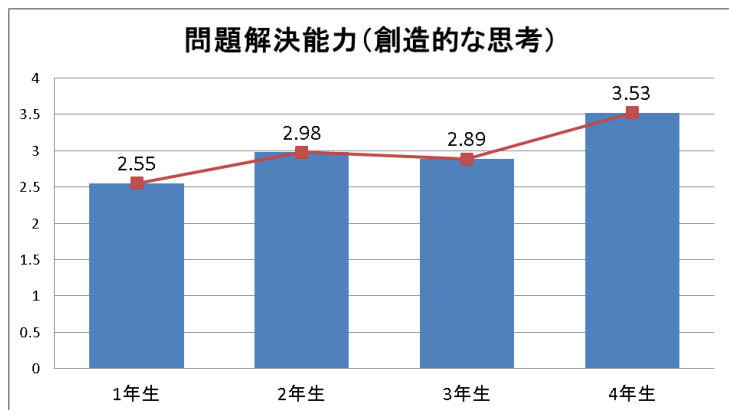
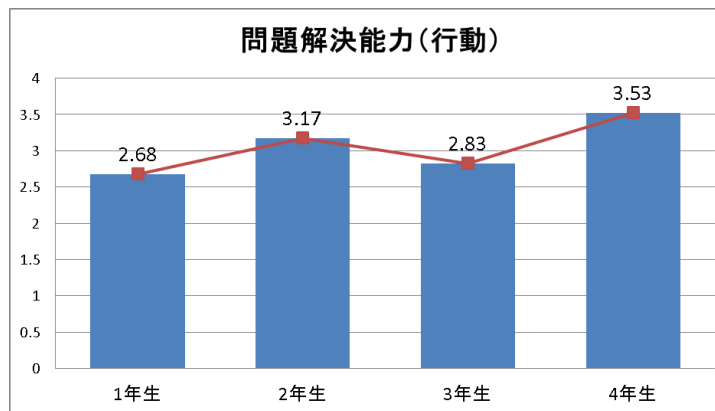
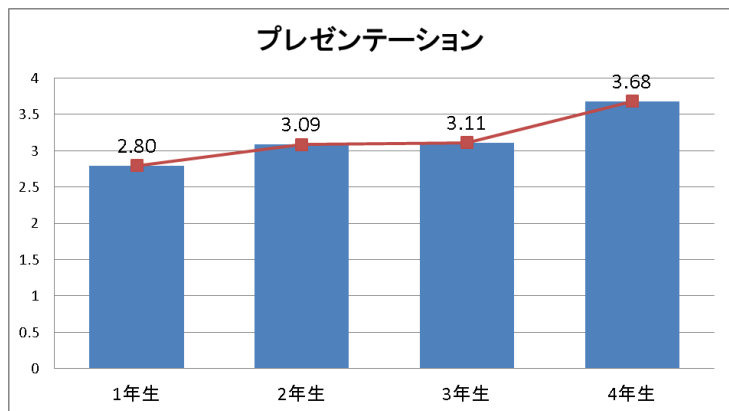
<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 情報福祉マネジメント学科

情報福祉マネジメント学科では学生の学修成果の把握を目的に、ルーブリックに基づいて、「情報科学に関する知識・技術・理解」「データ処理とそのプロセス評価」「プレゼンテーション」「問題解決能力（行動）」「問題解決能力（創造的な思考）」の5項目を5段階評価で調査した。なお、回答数は1年生94、2年生46、3年生35、4年生19である。

各項目に対して5段階を1～5点（5点を最高評価）に換算した際の各学年の平均値をまとめて図示したものが以下になる。なお、棒グラフの上方に配置されている数字は平均値である。





各グラフからは5項目何れにおいても学年が上がるほど平均値が高くなり、卒業に至るまでに5項目の各要素で段階的な成果獲得の傾向がみてとれる。したがって、学科として学修は適切に進展していると判断できる。とりわけ、5項目のうち「問題解決能力(創造的な試行)」の伸びが最も大きいところは特筆でき、総合的な成果獲得の源泉となっていることが裏付けられている。また、全項目において3~4年生の段階で平均値の上がり幅が大きいことから、ゼミならびに卒業論文への取り組みが大きな要因と推察される。

他方、全体的に3年生の平均値が低くなる傾向にあるので、2,3年生が学習を含めてより充実した大学生活を送れるよう学科全体で取り組むことが来年度の課題であると考えられる。